

住 民 登 録

2月1日現在

前月比
 人 口 78,050 +81
 (男 37,547)
 (女 40,503)
 世帯数 19,630 +28

お お だ て

● 編集と発行一大館市役所
 ● 発行年月日一昭和46年3月1日
 ● 発行日一毎月1日
 定価1部5円

昭和43年3月1日第3種郵便物認可

望楼の勤務

地上28mの高さから市街を見おろす……
 いろとりどりの屋根、美しい山なみ、確かに昼は絶好の展望台であるが、始めて上がる人にとっては目まいと驚怖感におそわれ、景色どころの話ではない。
 夜は夜で、孤独と視界難との戦いがはじまる、やはり消防署員ならではの上がれない望楼である。
 最近、県内の市町村では、望楼勤務をやめている所が多い。何故なら、ビルの建築とばい煙によって視界が悪くなったこと、最近の通報は電話や報知器によるものが増えてきたからだという。

このことは、私たちの大館市でも同じこと、しかし、本市の消防署では、いつ、どこで発生するか予測できない火事にそなえ、昼夜兼行で見はりをつけている。
 雨の日も、風雪の日も、不審な煙と火をタカ目のようになってさがしつづける係員の疲労も大きい。
 だが、つかれはとうてもよい、市民が安心して暮らすためには、まず火事は出さないで欲しい、望楼に上る署員はただそれのみを願っている。



消防本部では、45年中の火災発生状況と救急出動件数を集計しました。火災発生件数は61件で、1昨年より1件の増、損害額にして4,142万500円多くなっています。昨年の火災で焼死者3名を出したことは、ほんとうに残念なことです。救急車の出動件数は331件で、1昨年より99件も増え、その救急患者は301人とこれまた大幅に増加しました。一方、風水害による災害は1件もなく、穏やかな年であったといえます。ところで、今年はいままでに8件の火災が発生しており、これから火災シーズンを迎え、火の元にはじゅうぶんご注意ください。以下は、45年中の消防災害白書のあらましです。

火 災 の 状 況

まず、火災の発生件数をみると1昨年にくらべわずか1件の増になっており、その月別件数はつぎのとおりです。

月別	出火件数 (件)	損害見積額 (千円)
1月	3	3,194
2月	6	14,014
3月	9	25,432
4月	8	31,446
5月	14	12,337
6月	5	5,057
7月	0	0
8月	4	955
9月	2	502
10月	2	405
11月	2	7,010
12月	6	8,059
合計	61	108,451

結局、61件の発生であったが、この火災で灰と化した財産は、なんと10億845万円になったわけで火災による損失がいかに大きいものか改めて知らされます。
 さらに、昨年中には3人の焼死者を出すという、いたましい事故も起こりました。今年に入ってから、全国的に火災による焼死者が以外に多いとされています。

火災時の避難口の確保や老人や病人は2階に寝せないなど、常日頃から十分気をくばっておきたいものです。

さて、火災原因について調べてみると、おおざっぱに分けて石油関係12件、薪ストーブ関係7件、電気関係6件、ガス関係2件、その他34件となっています。

これを個別に分け、その原因順はつぎのようになりますが、依然として、タバコの不始末によるものが多く、路上への捨てタバコ、寝タバコには十分注意が必要です。

<原因別の順位>…2件以上の火災

- ① タバコの不始末 13件
- ② ガソリン引火 4件
- ③ たき火の不始末 4件
- ④ 放火 4件
- ⑤ 煙突の過熱 3件
- ⑥ ストーブの過熱 3件
- ⑦ 石油ストーブ不良 2件
- ⑧ 石油ストーブに可燃物がふれた 2件
- ⑨ 電球過熱(保育箱) 2件
- ⑩ 電気接触不良 2件
- ⑪ 電気配線不良 2件
- ⑫ 焼却炉の飛火 2件
- ⑬ 残火不始末 2件

救急車の出動状況

市の救急業務は、40年10月15日、ライオンズクラブから寄贈された救急車の配置によってはじめられたものです。救急業務をはじめから7年目、年を追うごとに回数はうなぎ昇りに増えつづけています。

ついでに、昭和41年から45年までの5年間の出動回数を年別に調べてみると、つぎのようになります。

年	出動回数
昭和41年	117回
昭和42年	141回
昭和43年	192回
昭和44年	232回
昭和45年	331回

この推移を見てもわかるとおり、45年中の出動回数は41年の約2倍、41年は3.1日に1回の出動であったのが、45年には1.1日に1回出動している計算になります。さて、この白書から、どんな事故に多く出動したかを調べてみると、その順位はつぎのようになります。

種別	出動件数	搬送人員
① 急病人	123	113
② 交通事故	100	92
③ 一般負傷	31	26
④ 労働災害	17	17
⑤ 自損行為	10	9

種別	件数	人員
⑥ 犯罪	4	3
⑦ 運動競技	3	3
⑧ 水難	2	2
⑨ 火災	2	2
その他	39	34

となっており、出動回数は331回、搬送人員合計301人です。

また、搬送人員のうち、傷病の程度によって区分すると、45年中には、死亡者を12人、重傷者69人中等傷者128人、軽傷者92人それぞれ病院に運んだことになりました。いずれ、交通事故の激増に関連して救急回数も増えることと推測されるこの頃ですが、緊急を要しない病人の出動要請は、できるだけ遠慮していただきたい、と市の消防署ではお願ひしています。

火事と救急車は

119番

昭45年 消防災害白書